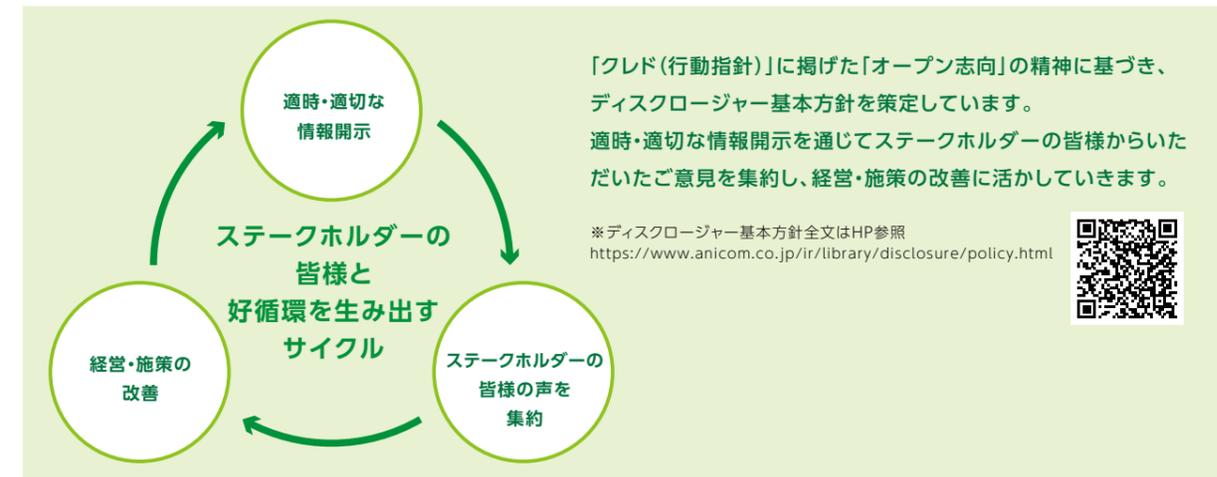


ステークホルダーリレーション

当社は20年超の知見や128万件以上のご契約を有するペット業界のリーディングカンパニーとして、業界の健全な発展に寄与する責務があると考え、その責務を果たすためにステークホルダーの皆様とのエンゲージメントを通じて、企業価値及び社会的価値の向上に努め、人間とどうぶつが幸せに共生する社会の実現を目指します。



ステークホルダーから期待されること/果たすべき責任

ステークホルダーの期待に応え、責任を果たすための仕組み

<p>お客様</p> 	<p>当社グループは、「常にお客様の視点に立ち、お客様の求めるサービスを創り出すマーケットアウト(お客様の真のニーズにお応えすること)を意識した経営を徹底し、お客様の願いを実現するとともに、新しい価値を創造することに努める」ことを行動指針に掲げ、全従業員一丸となり、その実現に向けまい進しています。</p>	<p>1 お客様の声を経営に活かす取組み 全苦情件数15,625件、 ミニマーケットアウト部会開催回数4回</p> <p>2 お客様にふさわしい商品・サービスの提供</p> <p>3 わかりやすい情報の提供</p> <p>4 迅速かつ適切な保険金のお支払い</p> <p>5 利益相反の適切な管理</p> <p>6 お客様本位の業務運営に向けた取組み</p>
<p>株主・投資家</p> 	<p>積極的かつ効果的な情報開示および説明責任を果たし、株主・投資家の皆様との信頼関係を構築すること、情報開示における適時性と公平性を図り、当社の企業価値を正しく反映した適正な株価の形成、社会的評価の形成を図ること、双方向コミュニケーションを通じ、株主・投資家の皆様の声を経営にフィードバックし、企業価値の向上に役立てることを目指しています。</p>	<p>1 機関投資家・アナリスト向け決算・事業戦略説明会(4回)</p> <p>2 国内外の投資家に対する個別面談(146回)の実施</p> <p>3 株主総会における株主との対話や、議決権行使に向けた働きかけ</p> <p>4 WEBサイトやディスクロージャー資料による適切な情報開示</p>
<p>パートナー</p> 	<p>ブリーダー、ペットショップ、動物病院といった様々な取引先企業様は、共に価値を生み出す大切なパートナーと考え、ペット業界をよりサステナブルな業界に変革すべく、協働して動物愛護・動物福祉の向上に取り組むとともに、信頼に基づく公平・公正な取引を推進しています。</p>	<p>1 ブリーディングサポートの提供</p> <p>2 保険責任者・保険キーパーソン制度</p> <p>3 公平・公正な取引に向けた監査の実施</p>
<p>従業員</p> 	<p>すべての従業員が人と人との繋がりを尊重し、その繋がりに多くのごことを学ぶことによって自らの成長を日々促進させ、企業の成長および社会の発展に寄与していくことを目的として、ダイバーシティを推進しています。また、常にオープンで公平な教育機会を提供し、個々の能力や適性を尊重しながら互いに協力し、自由に競い合うことで加速度的な成長を遂げることを目的とし、人材教育・能力開発に努めています。</p>	<p>1 定期的な従業員エンゲージメント調査の実施</p> <p>2 社内報「アニコムダイアリー」「アニコスマイル」の発行</p> <p>3 カスタマーハラスメント基本方針の制定</p>
<p>地域社会</p> 	<p>地域社会の一員として、全国の自治体等と連携・協働し、動物愛護や防災といったテーマで社会課題の解決に向けた取組みを行っています。また、気候変動や社会課題の解決に向けて、カーボンニュートラルへの取組みを推進しています。</p>	<p>1 全国の自治体と連携・協働し、動物愛護等に向けた取組みを実施 協定締結自治体数 5自治体</p> <p>2 CO₂排出量のネットゼロ達成に向けた取組みの推進 Scope1+2排出量 180t-CO₂</p>

中期経営計画

「中期経営計画2022-2024」の実績

当社グループは、2030年度に完了を予定する「第二期創業期」の実現に向け、2022年度からの3年間を基盤構築の第1フェーズと位置付けてきました。この期間は、資本・リスク・リターンバランスを重視しつつ、株主還元にも配慮する経営を志向し、主要経営数値目標およびKPI目標を着実に追求してまいりました。

最終年度である2024年度においては、アニコム損害保険の新規・保有契約件数がともに堅調に伸長し、当社グループ全体の経常収益および経常利益は過去最高を更新、力強い成長を遂げ、さらに、配当性向は目標としていた20%を上回る水準で着地し、ソルベンシー・マージン比率も目標を上回る水準を確保するなど、収益性・健全性・還元性の各面において、当初掲げた目標を総じて達成することができました。

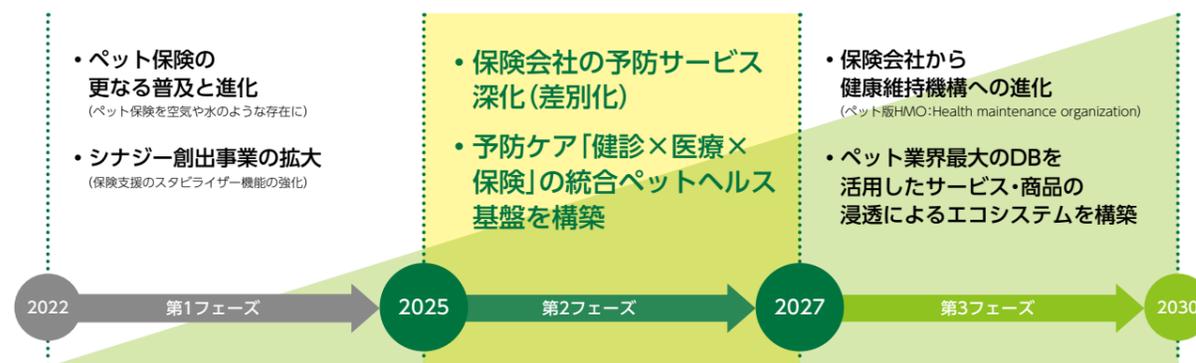
	23年3月期実績	24年3月期実績	25年3月期実績	当初中期経営計画
連結経常収益	565.2億円	604.3億円	676.8億円	650~700億円
連結経常利益	36.8億円	41.5億円	49.4億円	45~50億円
連結ROE	8.2% (前年8.0%)	9.4%	11.2%	10%水準
株主還元 (配当性向)	14.2% (前年9.6%)	16.2%	20.2%	20%水準
シナジー創出事業 売上高・売上高比率	49.1億円 8.7%	54.3億円 9.0%	72.3億円 10.7%	78~84億円 12%水準
損保単体SMR (ソルベンシーマージン比率)	373.1% (前年393.5%)	333.7%	345.2%	300~320%

保険事業	23年3月期実績	24年3月期実績	25年3月期実績	当初中期経営計画
損害率	58.9% (前年58.1%)	59.9%	60.6%	58~59%
事業費率	34.9% (前年36.7%)	33.3%	32.3%	35~36%
コンバインド レシオ	93.8% (前年94.8%)	93.2%	92.9%	93~94%
シナジー創出事業				
遺伝子検査検体数	9.2万検体/年	6.7万検体/年	6.6万検体/年	12~15万検体/年
腸内細菌叢 申込数	21.1万測定/年	22.0万測定/年	24.2万測定/年	20~25万測定/年
健康イノベーション 事業売上	0.63億円	1.76億円	2.90億円	売上8~10億円へ
病院事業※	売上 : 17.6億円 のれん償却後利益 : ▲2.6億円	売上 : 18.7億円 のれん償却後利益 : ▲1.7億円	売上 : 21.9億円 のれん償却後利益 : ▲0.3億円	売上30億円へ のれん償却後黒字

※過年度を含め、間接部門経費配賦後の数値を記載

「中期経営計画2025-2027」の概要

2030年度の第二期創業期完了を見据えた経営ビジョン実現への第2フェーズと位置付け



2030年度ビジョンの実現へ

どうぶつ業界における川上から川下までを
発展的に繋ぐインフラプレーヤーとして無限大の価値を社会に提供する

どうぶつの一生を豊かで健康にするための「入って健康になる保険」を実現

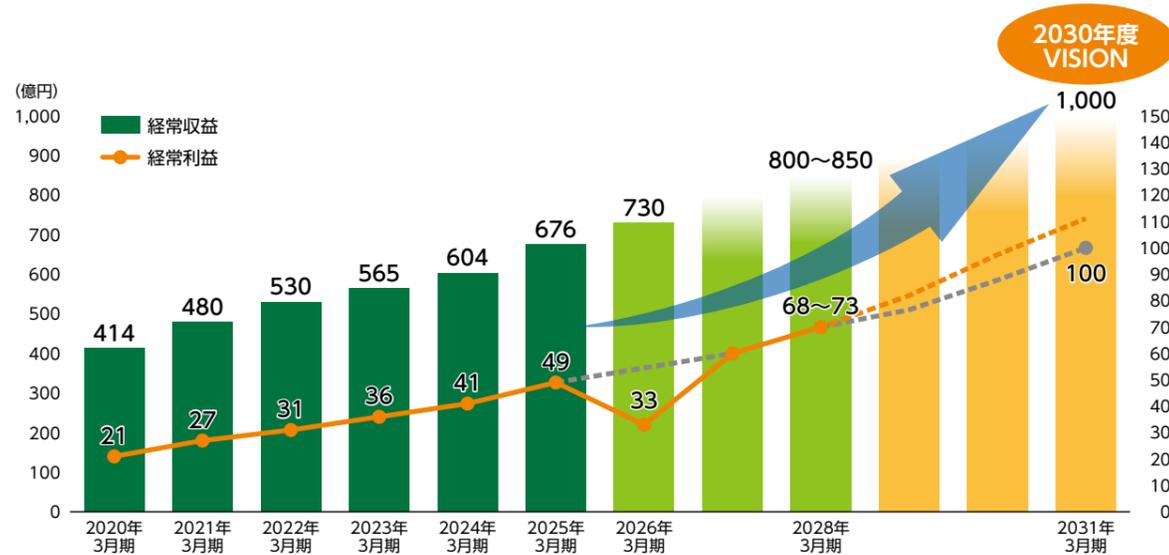


主要経営数値目標/KPI

予防型保険実現のための先行投資を実施し、中長期的にはさらなる利益成長を目指す

2028年3月期 経営数値目標

連結経常収益 800~850億円	連結経常利益 68~73億円	連結ROE 12%水準
---------------------	-------------------	----------------

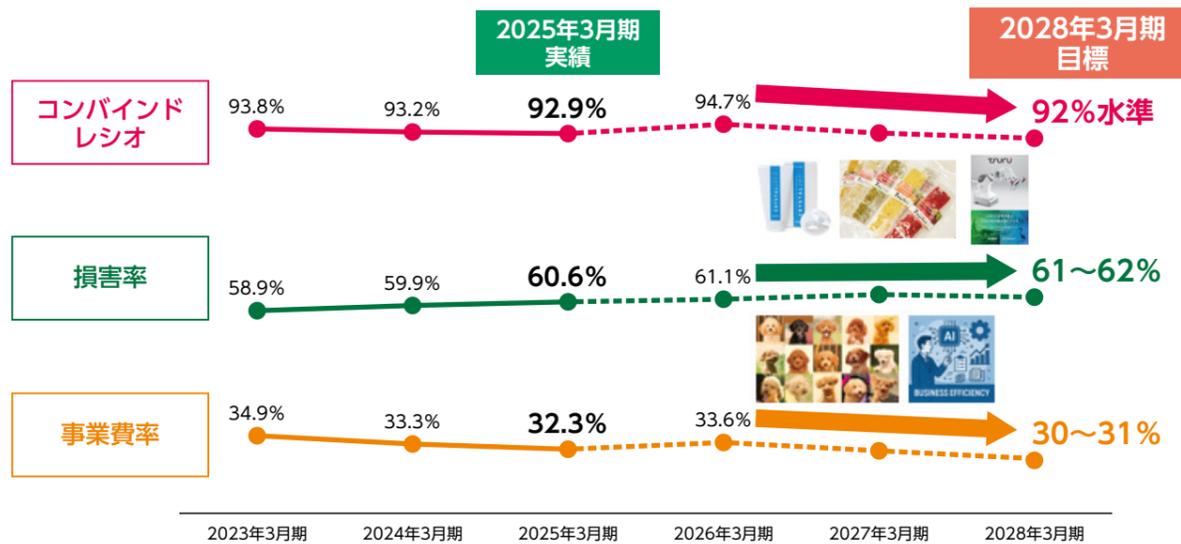


注) グレーの線は2026年3月期の損益影響を考慮しない場合の成長曲線

保険事業主要KPI

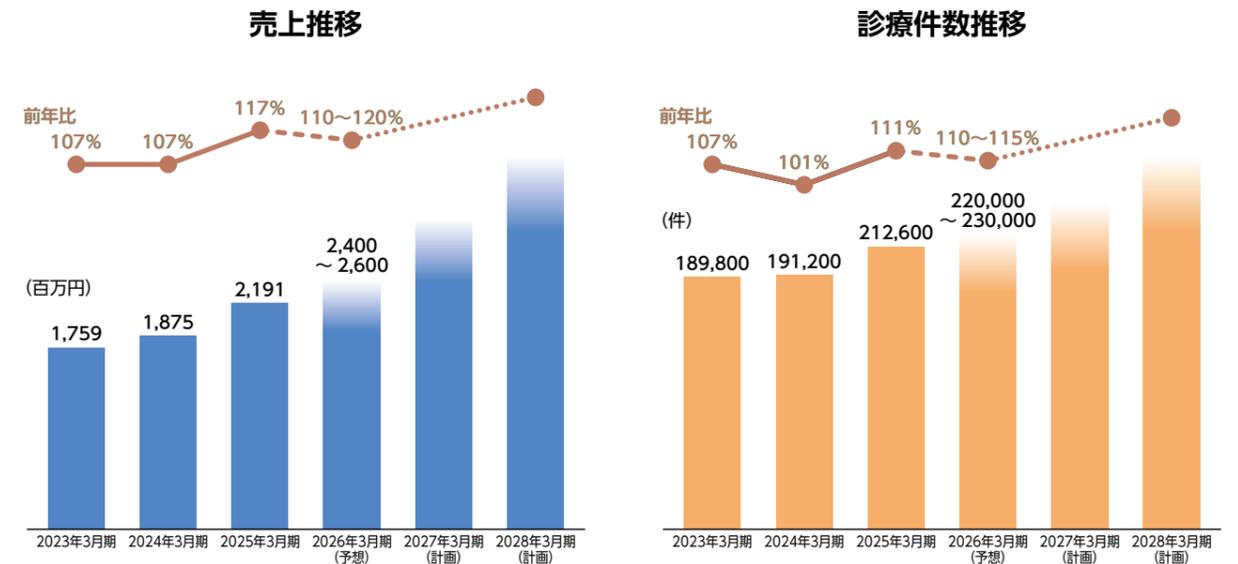
2028年3月期目標は、2030年度ビジョンに向けた第2フェーズとしての位置付け

販売チャネルのさらなる拡大、予防のためのソリューション提供、AIを活用した効率的な業務運営によって、損害率・事業費率を適切にコントロールし、保険事業の安定的な成長を実現する。



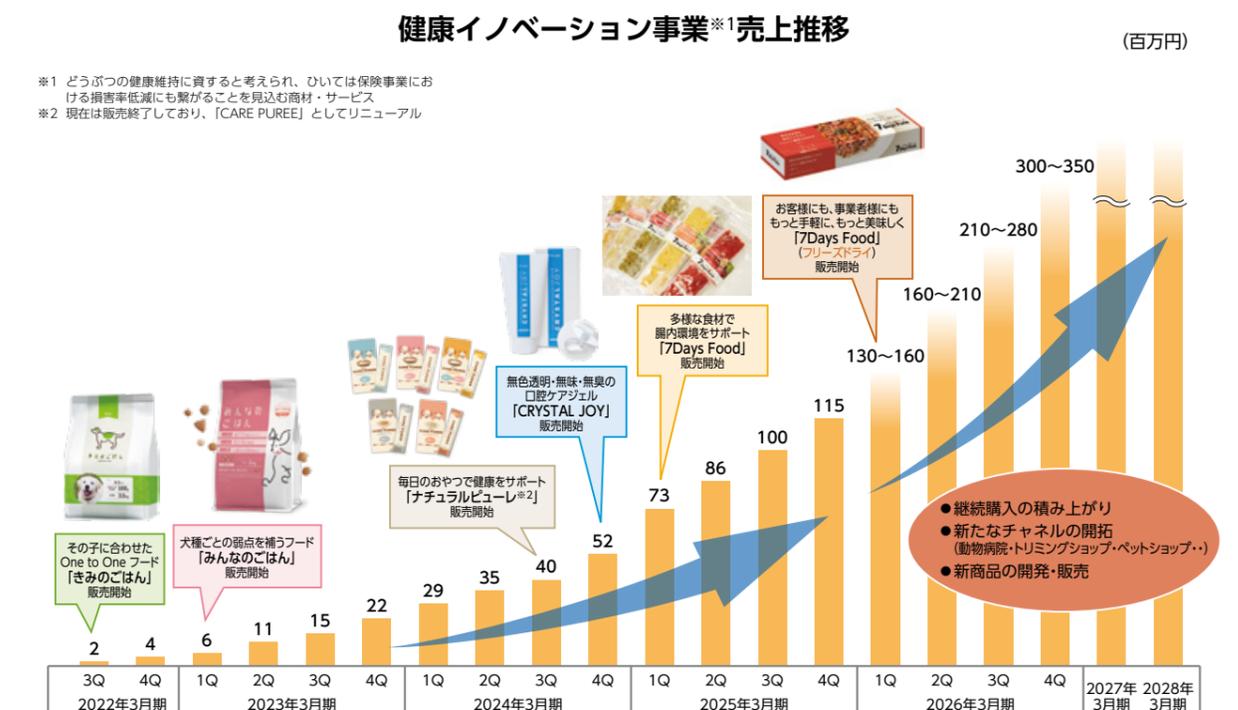
動物病院運営事業の主要KPI

グループ病院の売上および診療件数の推移を明示 今後も定期的な情報公開を予定



健康イノベーション事業の主要KPI

商材・サービスの売上推移を明示 今後も定期的な情報公開を予定



※1 どうぶつの健康維持に資すると考えられ、ひいては保険事業における損害率低減にも繋がることを見込む商材・サービス
 ※2 現在は販売終了しており、「CARE PUREE」としてリニューアル

APPROACH 1

口腔ケア戦略

口腔内環境を整えることの重要性は人でも認識されていますが、

ペットでも同様です。特に歯周病は万病の元といわれており、

幼齢期からの口腔ケアが重要であると考えています。

日々の口腔ケアを通じて、将来の重篤な疾病発症予防の実現を目指します。

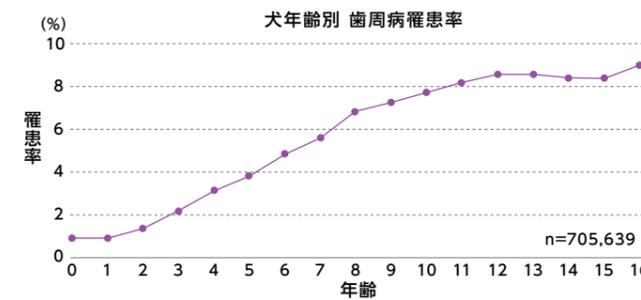


歯周病は万病の元

「歯周病は万病の元」。人の医療では広く認知されているものですが、実はペットでも同様だったのです。

歯周病原因菌等は腫れた歯肉から容易に血管内に侵入し全身に回り、歯周病原因菌自体や菌が産み出す毒素が常に体中を巡ることにより、全身性の免疫低下を引き起こします。この結果として、様々な病気の治りの遅さ、もしくは、病気の原因そのものになっていることが疑われています。

また、ペットの口腔内環境は人と比べ、歯周病になりやすく、なんと0歳から歯周病を発症することが判明しています。

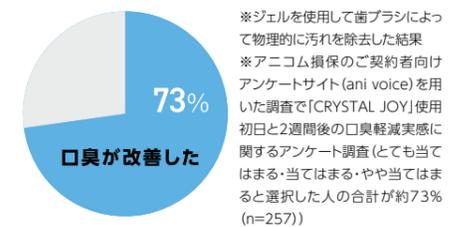
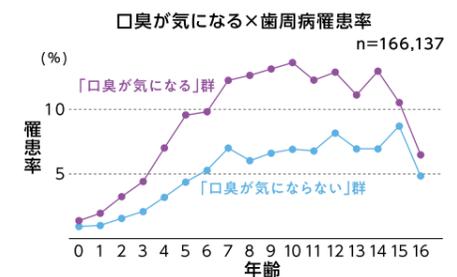
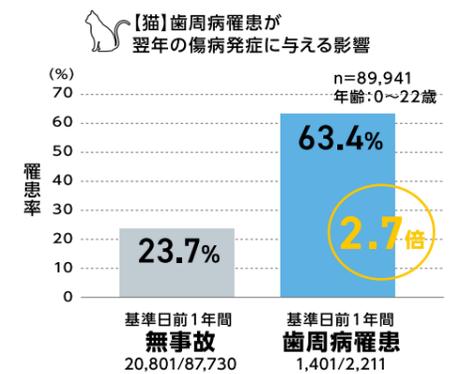
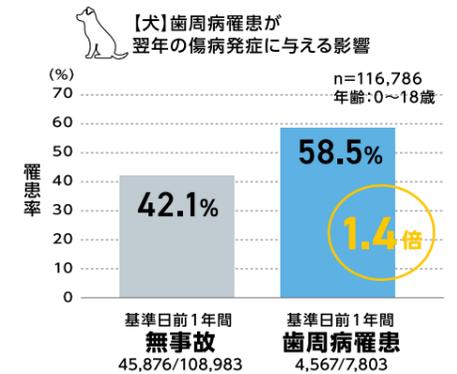


当社のグループ会社である、アニコム損保への年間450万件を超える保険金請求データを分析した結果、歯周病に罹患している犬は健康な犬に比べて、翌年すべての傷病の罹患率が約1.4倍になることがわかっています。また、猫においても同様に、歯周病に罹患している場合には、翌年すべての傷病の罹患率が約2.7倍になることがわかりました。すなわち犬・猫にとっても、「歯周病は万病の元」であり、歯周病予防のためにも日々の歯磨きは重要であるといえます。

また、この歯周病は、口臭との関連性も示唆されており、口臭が気になる犬・猫の方が歯周病に罹患している割合が高く、すなわち、口臭は歯周病の存在証明といえるのです。

このように、歯周病を予防することが、将来の重篤な疾病に罹患するリスクを下げることに繋がることから、アニコムグループでは、革新的な酸化制御技術 (MA-T®: Matching Transformation System®) を用いた歯磨きジェル「CRYSTAL JOY」をアース製薬株式会社と共同開発しました。すでに一部の動物病院での販売を開始しており、多くの方にペットの口臭の軽減を実感いただいております。

引き続き、口腔ケアの重要性への啓蒙を進めることで、ペットの健康へのアプローチを推進していきます。



APPROACH 2

腸内ケア戦略

「運命」たる遺伝子は、病気と深く関わっているものの、

全てを決めるわけではありません。

現代のペットを巡る環境下において、ペットの健康に影響を与え得る

「後天的かつ直接的な要因」の中でも、影響力の高い項目の一つが、

腸内ケアであると考えています。

たとえ遺伝的に弱くとも食事を通じた腸内ケアを

することによってペットの健康を高めることができると考えています。

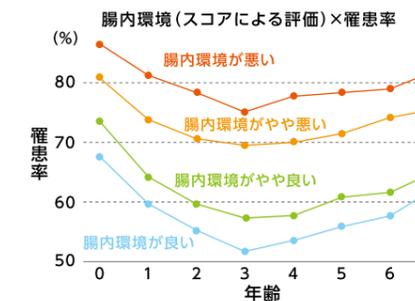


免疫力のバロメーターである腸内環境

ペットを含めたあらゆる生命は腸内細菌とともに歩んできた長い歴史があり、多様な食事をとることによる食刺激を通じて腸内細菌の多様性とともにより免疫力を高めてきました。

しかしながら、現代のペットは、「総合栄養食」と称して毎日同じ食事を与えられている場合が多く、栄養面では十分でも、食刺激が不足することで、免疫の低下を招き、ひいては各疾患の罹患率を高めてしまうことが起こり得ます。

この免疫は病気から体を守ってくれる重要な機能であることから、ペットの腸内環境の多様性を高めることと病気のなりやすさには密接な関係が認められ、すべての疾病のなりやすさは、腸内環境と関連している（しかも、犬の品種・年齢に関わりなく）ことが分かりました。まさに腸内環境は「免疫力のバロメーター」といえます。



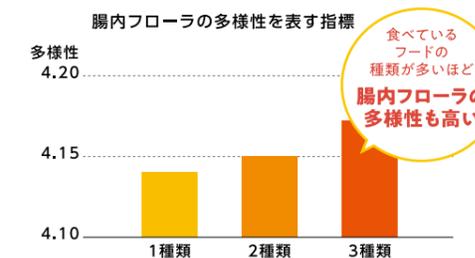
<腸活(お腹健康スコア)区分>
 ・悪い:スコアが「-5~-1」の生体・やや悪い:スコアが「0~4」の生体
 ・やや良い:スコアが「5~9」の生体・良い:スコアが「10~15」の生体
 <条件>
 ・2018年12月以降にどうぶつ健活を実施した生体のうち
 ・契約始期日が2021年3月以降~2023年12月の生体
 ※誤飲骨折を罹患した生体を含む。

腸内ケアフード

人間を含むすべての生命は、季節や天気などに合わせて異なる食材を取り入れることで免疫を高め、日々変化する環境に対応しています。また、様々な食材を取り入れることは腸内細菌の多様性を高めることに繋がります。その結果、免疫力を向上させることができます。

アニコムグループでは、ペットの腸内細菌の多様性を高めるために、日々の食生活における食刺激の向上を実現する「7Days Food」を開発いたしました。多彩な香り・味わい・歯ざわり・色等の食刺激は、本来持っている嗅覚・味覚・視覚等を総動員し、腸内免疫を適度に刺激することで、本来持っているべき免疫力を目覚めさせ、ペット本来の免疫力を取り戻すことに繋がります。

また、アニコム損保の付帯サービスである腸内細菌叢検査サービス「どうぶつ健活」は、毎年20万件を超える検査を行っております。引き続き、これらのサービスを通じて、腸から始まる予防サービスを提供してまいります。



※腸内フローラ測定前のアンケートで回答いただいた、普段食べているフードの種類数別で多様性を比較しました。
 対象:0~3歳の犬(34,955頭)、2種類(3,292頭)、3種類(290頭)



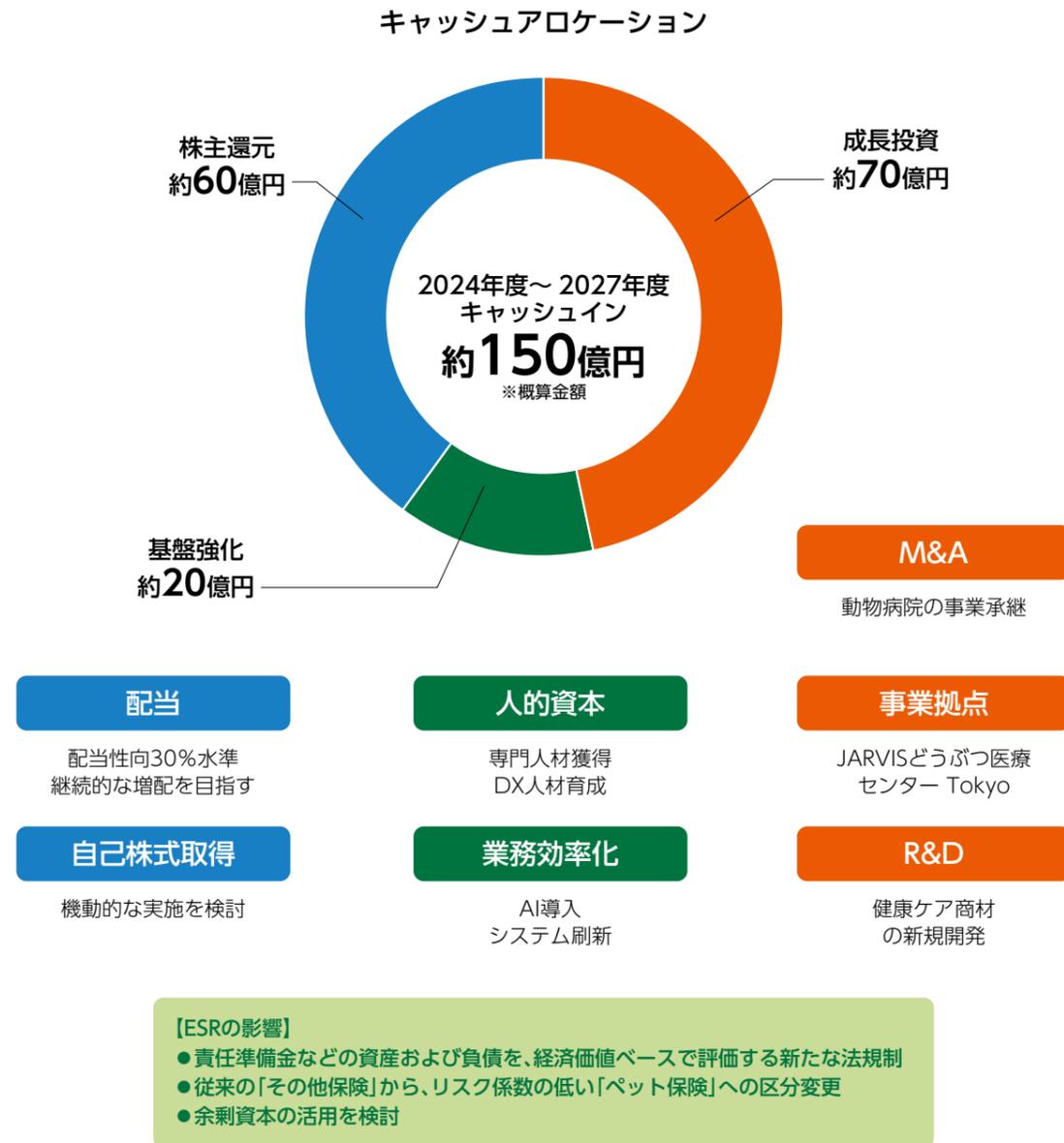
7 Days Food



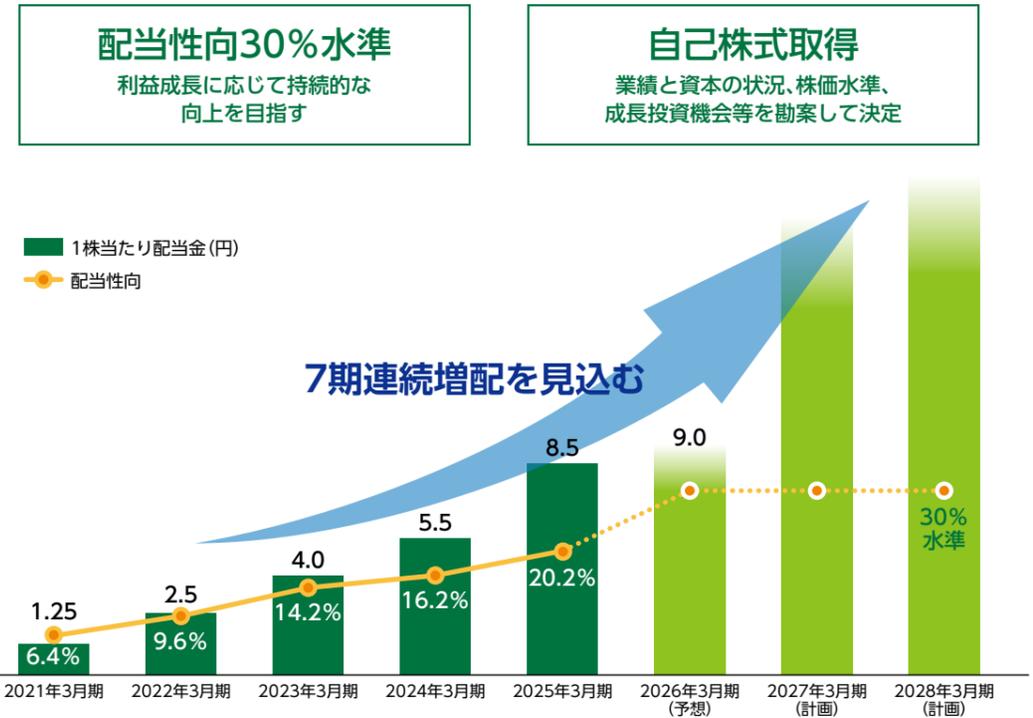
1日で12品目以上、7日間で55品目以上の食材

資本政策

ESRを適正水準に保ちつつ、『成長投資』、『基盤強化』、『株主還元』の最適なバランスを目指す



株主還元は配当を基本としつつ、自己株式取得も機動的に実施



人的資本

人材を「資本」として捉え、その価値を最大限に引き出すことで、中長期的な企業価値向上に繋げる人的資本経営を目指し、次のような取り組みを行っています。

人材育成方針および社内環境整備方針

人材育成方針及び社内環境整備方針として「グループ人事管理基本方針」第3条において以下のとおり制定しています。

(基本理念) 第3条

(5) 人材育成・能力開発

- ①グループ各社では、常にオープンで公平な教育機会を提供し、個々の能力や適性を尊重しながら互いに協力し自由に競い合うことで加速度的な成長を遂げることを目的とし、人材育成・能力開発に努める。
- ②グループ各社では、あらゆる状況において、ロール(役割)をプレイ(演技)する組織風土を醸成し、勇気をもって実践することによって自己成長を遂げ、真のプロ人材の育成に努める。

(7) 福利・厚生

グループ各社では、社員とその家族の健康的で豊かな生活を支える一助として、個々の価値観、ライフスタイル、多様なニーズに対応した福利厚生制度の充実に努める。

指標・目標

	項目*1	実績				目標
		2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2030年度
人への貢献	従業員に占める女性割合	61.2%	60.9%	61.4%	63.8%	50~60%
	管理職に占める女性割合*2	31.8%	31.2%	33.7%	36.5%	50~60%
	男性育休取得率	58.8%	77.8%	68.0%	69.0%	100%
	女性育休取得率	100.0%	96.0%	100.0%	100.0%	100%
	有給取得率*3	62.7%	64.6%	75.0%	62.6%	80%
	自発的離職率*4	12.3%	11.8%	13.4%	14.9%	10%
	研修費用(企業総額)	12,350,455円	12,784,247円	14,137,183円	15,757,720円	—
	研修費用(1人当たり平均)	14,581円	14,364円	16,119円	16,178円	15,000円
	発明者数	51名 (累計66名)	37名 (累計103名)	24名 (累計127名)	17名 (累計144名)	年間60名
	高齢者・障がい者・子どもふれあいイベント	—	—	3回	3回	20回
子ども教育サポート(動物病院体験等参加人数)	—	—	12名	16名	100名	

(注) 1. 算定対象は当社及び連結子会社(2022年度以前の「No.5 有給取得率」を除く)。
 2. 管理職の定義は「部下を持つ職務以上の者、並びに部下を持たなくともそれと同等の地位にある者」で「役員」を除く。
 3. 2022年度以前は株式会社シムネットを除く。
 4. 2023年度以前は株式会社フローエンスを除く。

人材育成

常にオープンで公平な教育機会を提供する場として「アニコム大学」と称した教育体系を整備しており、階層別に必要なスキルや姿勢を身に付ける研修の他、社員向けの自己研鑽セミナーを実施しています。また、能力開発を目的として戦略的に配置転換や異動を実施するジョブローテーションにより、1つの分野に限定することなく多くの業務に携わることで経営的な視点を持てる人材の育成や、新たなビジネスの創出へと繋げています。

獣医師等の専門人材については、グループ病院間を跨いだ症例検討や手術研修、学会参加費用補助など、真のプロ人材の早期育成を目指した能力開発を推進しています。

アニコム大学

スキルアップ	キャリアアップ	ベーシック
入社後研修 <ul style="list-style-type: none"> 新入社員研修(入社後3週間) 中途入社者研修(入社後2週間) 部門別OJT 損保険募集人資格受験費用補助 新卒OJTトレーナー(SP)制度/後輩育成研修 	自己成長支援 <ul style="list-style-type: none"> 社内留学制度 360度フィードバック 目標チャレンジ制度 ジョブローテーション制度 部長会/経営会議オブザーブ 	基礎研修 <ul style="list-style-type: none"> コンプライアンス研修(年6回実施) 全社員テスト(月1回実施) ハラスメント研修(年2回実施) 
自己研鑽 <ul style="list-style-type: none"> E-ラーニング(ベネフィットステーション) アニコム大学ミニゼミ(旧アニコム大学) 獣医学会参加費用負担 内定者研修 損保総研受講費用負担 	階層別研修 <ul style="list-style-type: none"> フォローアップ研修(新卒1~3年目対象) 中堅リーダー育成研修(選抜) 次世代マネージャー研修(選抜) 新任管理職研修(部長・課長) 幹部候補生外部研修 	

人的資本

全社員一人一特許戦略

サステナビリティを巡る難解な社会課題を効果的に解決する組織を作っていくために、社員自身の自発的な探求心や使命感をベースに遂行していける仕組みづくりを行っています。これによって、様々な個性を持った多様な人材が自由な発想でかつ、より本気になって業務に取り組むことを可能にし、人間の集合知の力をさらに引き出し得ると考えています。

これを可能にするアニコムグループ独自の仕組みとして、従来の組織とは異なり、職務遂行を通じてなされた個々人の努力やそこで得られた発見等をより個々人の存在と紐付け、社会に広く認知させ伝達し、社会を豊かにするべく残されていくよう「全社員一人一特許(論文等)戦略」を実行しています。これにより、全社員が、今の時代を共に笑い涙し悩みながらも生き抜いた証を、言わば社会的な子孫として残していけるようにしていき、個々人の存在についてもさらに意味を与え得る人材戦略を推進していきます。

職場環境の整備

アニコムグループでは、会社と社員が対等な立場に立ち、相互の理解と信頼のもと協力し、会社の健全な発展と社員の社会的・経済的地位の向上を図り、正常な労使関係を保つため、労働関係法令を遵守し、安全かつ健全で働きやすい職場環境を維持しています。

●エンゲージメント調査

従業員の成長実感を高め、アニコムを魅力的でより強い組織にしていくことを目的として、2023年より全従業員を対象とした従業員エンゲージメント調査を実施しています。その結果を分析し、職場環境の改善に活用しています。

●テレワーク制度

在宅型テレワークを導入しています。柔軟な働き方を受容し、更なるワークライフバランス向上を目指した環境づくりに努めています。

●ペットを含む家族のための特別休暇

産休、育休、介護休に加えて、結婚・出産・ファミリーサポート休暇、バースデー休暇(社員本人、2親等以内の家族および飼育しているペットの誕生日に取得できる休暇)、ペットを新しく迎えたとき、死亡したときに取得するペット慶弔休暇など、ペットを含む「家族」のための制度を大切にしています。

ダイバーシティ&インクルージョン

アニコムグループでは、経営理念に則り、多様性を尊重した経営を行っています。性別、国籍、人種、職務経験を問わず、能力のある人材がその能力を最大限に発揮し、活躍できる環境の推進に取り組んでいます。

●獣医師等の専門人材の採用

アニコムグループには、獣医師資格を持つ社員が103名在籍し(2025年3月末時点)、日本で最も獣医師が集まる企業の一つです。この専門家集団の利点を活かし、他社にはできない保険引受体制や査定体制の質の向上を図っています。また、獣医師が集まる「信頼感」のブランドを顧客サービスに繋げるため、電話やLINEで獣医師に相談できるサービスなども展開しています。それだけでなく、疾患統計の抽出・分析や、遺伝子や腸内細菌等の研究、論文や学会での発表、専門誌への執筆、獣医師向けセミナーの実施など、専門性を生かして獣医療業界の発展に寄与しています。ほかにも、医学/農学/理学/薬学博士、弁護士、公認会計士、アクチュアリー(保険数理士)、弁理士、データサイエンティストやデザイナーなど、多種多様な専門家を積極的に採用しています。

VOICE 1

経営企画部 広報企画課 高橋 豊史さん

アートディレクター兼デザイナーとして、グループのクリエイティブ全般を担っています。2024年は、アニコム史上初めてグッドデザイン賞の審査に挑戦しました。「どうぶつ健保」には、他社には絶対に負けない商品性があります。とはいえ年々競合環境も激化する中で、社員が誇りを持てる、飼主様にも「アニコムで良かった」と思っていただけ…そんなきっかけを作りたいという想いがあったし、だからこそ落選するわけにはいかないというプレッシャーもありました。春先から準備を始めてメンバーと議論を重ね、一次・二次審査を経て半年以上。無事に受賞できたことは、「アニコムのデザインが世に認められた一つの証」として、素直にうれしく思います。



●女性活躍推進

「グループ人事管理基本方針」において、性別にこだわることなく、互いに尊重し合い、能力ある人材がその能力を最大限に発揮し活躍できる環境を提供することを定め、女性活躍の推進に取り組んでいます。

●子育て支援

出産を迎えたほぼすべての女性が産休・育休を取得し、約7割の男性が育休を取得しています。また、育児休業の延長限度を、法定を超える3歳まで延長可能としています。復職後も、法定を超える、子どもが小学校6年生を修了するまでの間、短時間勤務制度を活用できるようにし、育児と仕事を両立できるよう支援しています。

VOICE 2

商品サービス部 アンダーライティング課 渡邊賢介さん

給付企画課で補償基準に関する業務を中心に、再生医療分野など幅広いプロジェクトに携わる中、妻と共に育児を経験したいという思いから育休を取得しました。上司とは普段から相談しやすい関係性だったため言いづらはなく、「良い経験になるし、他の男性社員の育休取得にもつながる」と前向きな声をもらい、安心して決断することができました。復職時にはブランクや部署異動に対する不安もありましたが、前向きに捉えることで視野が広がり、その後はアンダーライティング課へ異動し昇進も果たしました。育休を経て、家族を軸としたライフプランを考えるようになり、働く親への理解もより深まりました。仕事と家庭を両立する力を高める貴重な機会になったと感じています。



●障がい者雇用

人事部門が主体となり、積極的に雇用を促進しています。入社後は必要に応じて配属部門に「支援担当者」を配置するメンター制度を採用し、個々の状況に応じた支援体制を構築しています。

●配偶者の範囲拡大

就業規則において、特別休暇の対象となる結婚・出産・死亡における配偶者の範囲に同性のパートナーを含むことを明記しています。

サステナビリティ経営の推進

アニコムグループは、企業価値の向上と持続可能な社会の実現を目指し、経済的価値と社会的価値を創造するサステナビリティ経営を志向しています。

サステナビリティ基本方針

アニコムグループは、世界中に「無償の愛」を伝え、平和を取り戻し、維持発展させることをパーパス(存在意義)として掲げています。また、社名でもある「ani(命) + communication(相互理解) = ∞(無限大)」のもと、命あるものがお互いに理解し、ともにひとつの目的に向かって力を合わせることで、これまで不可能とされていたことが可能になるとの経営理念を通して、どうぶつ業界のインフラプレーヤーとして無限大の価値を提供することとしています。

アニコムグループでは、地球環境をはじめとした様々な社会課題に対して、ペット業界として対応可能なものとしてマテリアリティ(重要課題)を設定し、人・どうぶつ・環境のそれぞれにおける以下の具体的な貢献に向けた取組みを行い、企業価値の向上と持続可能な社会の実現を目指します。

- 1 どうぶつへの貢献**
 すべての生命の多様性の尊重とWell-Beingの達成に向け、心と身体の健康、サプライチェーンの透明性確保、動物福祉、災害支援、野生動物保護といった活動に取り組めます。
- 2 人への貢献**
 ペットとの共生を通じて人々に生きがいを提供するとともに、地域活性化への貢献や教育機会の公平化等に向けた活動に取り組めます。また、一人一特許戦略の推進により、グループ社員一人一人の生きた証を社会的な子孫として残し続けます。
- 3 環境への貢献**
 あらゆる事業活動において、温室効果ガスの排出量削減、廃棄物の削減と再利用の推進といった、気候変動への対応や生物多様性の保全に向けた活動に取り組めます。

【マテリアリティ】

ペット	人	環境
<ul style="list-style-type: none"> 心と身体の健康 サプライチェーンの透明性 ペットの地位向上 	<ul style="list-style-type: none"> 生きがいの提供 地域活性化への貢献 教育機会の公平化 社会機能の強化 健康とウェルビーイング 	<ul style="list-style-type: none"> 気候変動への対応 生物多様性の保全

【課題解決に向けた各数値目標】

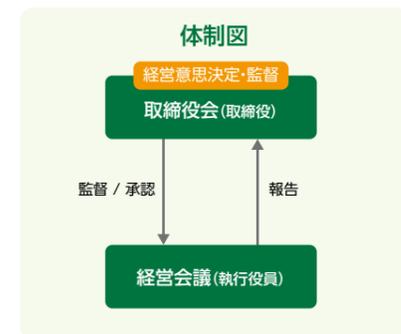
一人一特許戦略 発明者数 100人超	高齢者・障がい者・子どもふれあいイベント 20回/年	高齢者・障がい者雇用サポート 順次開始 (実績について随時公表)	子ども教育サポート(動物病院体験等の参加者数) 100名/年
------------------------------	--------------------------------------	---	--



サステナビリティ推進体制

アニコムグループでは、サステナビリティ経営をグループ全体で横断的に推進するため、経営意思決定機関である取締役会の監督のもと、経営に係る意思決定に関する協議の充実および経営状況管理を目的とする「グループ経営会議」にて、半期に一回程度、サステナビリティに関する取組みの進捗について議論を行い、取締役会へ報告しています。グループ経営会議は当社並びにアニコム損害保険株式会社の常勤取締役および執行役員、その他の事業子会社の各社長により構成されています。

取締役会は、「グループ経営会議」にて議論された内容の報告を受け、当社グループのサステナビリティ課題への対応方針や実行計画等について議論を行っています。



【バリューチェーンにおけるアニコムのCSV活動(ESG/SDGs対応)】

	誕生	お迎え	生活	お別れ	
具体的取組み	遺伝子検査 遺伝病撲滅と健康な生体の流通 SDGs: 12 (持続可能な消費), 15 (陸域生態系)	みんなのブリーダー ペット流通の透明性確保 SDGs: 12 (持続可能な消費), 15 (陸域生態系)	腸内フローラ測定 病気の早期発見と健康管理 SDGs: 3 (健康と福祉), 15 (陸域生態系)	ペット保険 獣医療の適切な提供 SDGs: 3 (健康と福祉), 15 (陸域生態系)	再生医療/細胞治療 “治らない”を治し、健康寿命延伸 SDGs: 3 (健康と福祉), 11 (持続可能な都市とコミュニティ)
	ブリーディングサポート 動物福祉、環境負荷減、動愛法遵守 SDGs: 12 (持続可能な消費), 15 (陸域生態系)	里親マッチング(hugU) やむを得ない事情の飼い主を支援 SDGs: 12 (持続可能な消費), 15 (陸域生態系)	地産地消フード 環境負荷の少ないフードの開発 SDGs: 3 (健康と福祉), 15 (陸域生態系)	個体識別 迷子による殺処分ゼロ SDGs: 3 (健康と福祉), 15 (陸域生態系)	老犬ホーム 高齢犬の介護負担を軽減 SDGs: 8 (持続可能な経済成長), 11 (持続可能な都市とコミュニティ)
地域社会との関連	自治体との連携 動物愛護啓発や殺処分ゼロ、防災等の連携 SDGs: 3 (健康と福祉), 11 (持続可能な都市とコミュニティ)	ペット共生グループホーム 高齢者・障がい者の孤独や不安の解消 SDGs: 8 (持続可能な経済成長), 11 (持続可能な都市とコミュニティ)	高齢者/障がい者雇用 ブリーディング施設での雇用と働きがい創出 SDGs: 8 (持続可能な経済成長), 11 (持続可能な都市とコミュニティ)	平和への貢献 無償の愛の伝達による平和への貢献 SDGs: 3 (健康と福祉), 17 (パートナーシップ)	アニマルセラピー ふれあい機会を提供し、人の健康寿命を延伸 SDGs: 3 (健康と福祉), 17 (パートナーシップ)
	ペット共生住宅 ペットと暮らせる住宅の提供 SDGs: 8 (持続可能な経済成長), 11 (持続可能な都市とコミュニティ)	子ども教育サポート 命の輝きに直に触れることで、学びのモチベーションアップへ SDGs: 8 (持続可能な経済成長), 11 (持続可能な都市とコミュニティ)	環境に配慮した経営(TCFD対応) SDGs: 13 (気候変動), 15 (陸域生態系)		
価値創造を支える基盤 [ERM態勢整備][コンプライアンス][情報セキュリティ][人事・組織管理][内部監査][危機管理体制強化] SDGs: 5 (ジェンダー平等), 16 (平和と公正)					

動物の尊厳保持

動物の尊厳に関する宣言

アニコムグループは、動物に関わる企業として「動物の尊厳」をCSR活動の方針の軸としており、「動物の尊厳に関する宣言」を社内で掲げています。宣言の中では「すべての動物は尊厳をもつこと」「いかなる動物も虐待の対象とはならないこと」などを謳っており、この宣言をもとに、具体的には、動物福祉、災害支援、野生動物保護といった取組みを実践しています。動物の尊厳保持はグループ人権基本方針においても明記し、グループ全体で動物の尊厳の尊重に関する活動に取り組んでいます。

アニコムグループの取組み

●すべてのどうぶつの健康を目指して

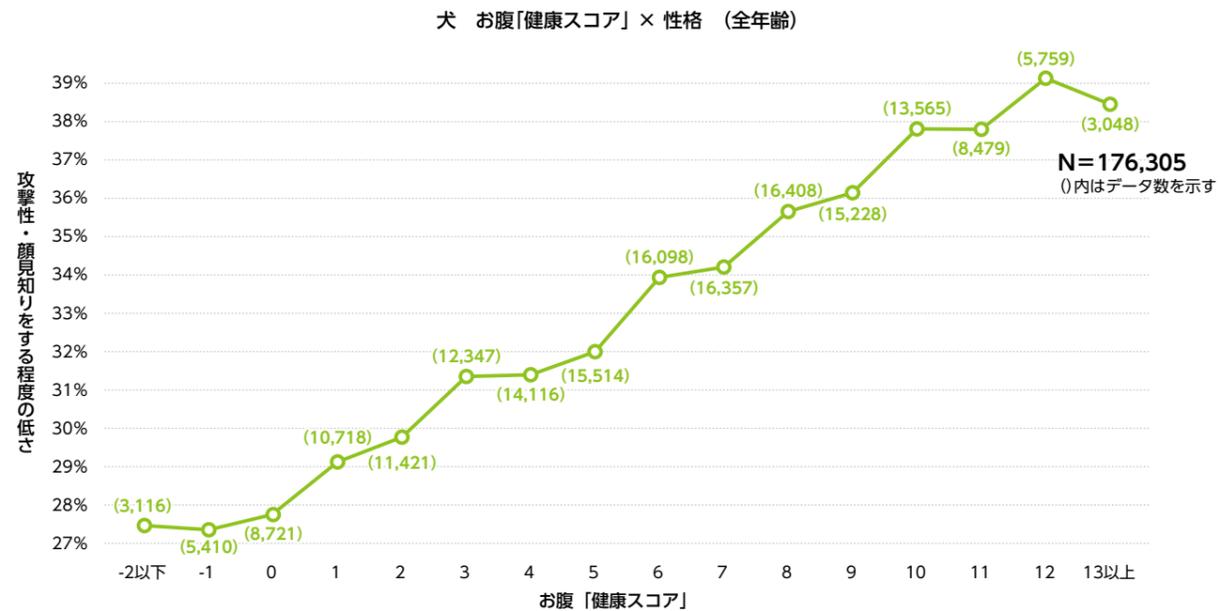
アニコムグループでは、全てのどうぶつが健康で幸せな生活を送れるよう、歯周病予防に着目した口腔ケア、免疫力のパロメーターとされる腸内環境に着目した腸内ケアなどのどうぶつを健康にするためのソリューションを提供しています。
※詳細は「口腔ケア戦略 (P.37) 腸内ケア戦略 (P.39)」を参照

●殺処分ゼロに向けて

環境省の調査によると、迷子や野良犬・猫の保護、飼育放棄や飼育困難といった理由で行政施設に引き取られ、その後、新たな飼い主を見つけられずに殺処分された犬・猫の数は、2022年で約1.2万頭とされています。

飼育放棄に繋がる理由のひとつとして、「攻撃的な性格で言うことを聞かずしつけができない」といったことが一般的に挙げられます。アニコムグループの研究では、お腹の「健康スコア※」が高い犬ほど攻撃性や顔見知りする程度が低い、との相関関係が明らかになってきています。

※健康スコアとは、腸内から検出される細菌の占有率や組み合わせ等をパラメーターとして数値化した、アニコムグループが考案した指標です。



どうぶつを健康にすることは、結果として殺処分を減らすことに繋がると考えています。アニコムグループでは、今後も殺処分されるどうぶつを“生まないこと”を目指して取り組んでいきます。

アニコムグループの取組み

●シェルター運営

2022年4月から、三重県多気町にあるリゾート施設VISIONにて、どうぶつ保護施設「ani TERRACE (アニテラス)」を運営し、飼い主がいらない犬や猫と新しい飼い主を繋げる活動を行っています。

どうぶつの保護施設というと、「暗い」「さみしい」「かわいそう」といったイメージがつきものですが、ani TERRACEは、「明るい」「あたたかい」「幸せ」な施設をコンセプトにし、元々どうぶつに興味がある方はもちろん、どうぶつに興味なかった方にも訪れていただける施設を目指しています。



●里親マッチングサイト[hugU]の運営

様々な事情から飼えなくなってしまった犬・猫・小動物などのどうぶつと里親希望者をつなげる里親マッチングサイト[hugU(ハグー)]を運営しています。

どうぶつと里親希望者がマッチングできる機会をひとつでも多く生みだし、新たな飼い主のもとでどうぶつが幸せに生きていけるようにサポートを続けていくことが、hugUの存在意義です。



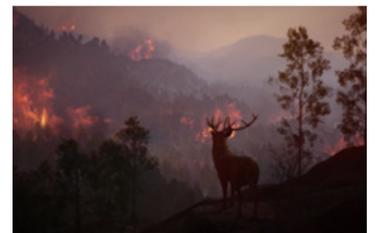
●譲渡会の開催支援

1頭でも多くの保護犬猫に家族を見つけてあげたいという想いから、動物愛護団体等が主催する譲渡会に会場提供などの協力を行っています。アニコム損保の各支店やアニコム先進医療研究所の動物病院・ラボ等、ペット同伴可能なグループ施設を用いて、飼い主のいない犬猫に幸せなご縁が繋がるよう、継続的に活動を行っています。



●災害支援

日本は災害大国といわれ、自然災害が私たちの生活に甚大な被害を及ぼすリスクが数多く存在します。そうした中で、アニコムグループではペットとその飼い主を中心に、災害支援を行っています。具体的には、飼い主が災害に備えて知っておきたい様々な情報を学べるサイトの運営や防災セミナーの開催、災害時のどうぶつ診療車派遣などを行っています。



指標・目標

	項目	実績			
		2021年度	2022年度	2023年度	2024年度
どうぶつへの貢献	hugU譲渡件数	2,377件	3,200件	3,701件	4,910件
	譲渡会支援回数	14回	22回	19回	17回
	保護犬猫譲渡頭数*	—	18頭	74頭	69頭

※2022年度は「ani TERRACE」のみの譲渡頭数、2023年度以降は譲渡会支援での譲渡頭数を含む。

アニマルウェルフェアの推進

PAWの取組み

①PAWとは？

アニコムには「PAW (Project Animal Welfare)」というプロジェクトがあります。「どうぶつを幸せにしたい」という想いを持った有志社員により2012年に結成されました。「動物の尊厳」を軸に、殺処分ゼロやペット防災、そのほか愛護啓発活動等、アニコムグループのどうぶつに関するCSR全般の実働部隊を担っています。PAWは、主に以下の4つのミッションにもとづいて、活動しています。



- (1) 動物福祉・愛護の啓発: 動物福祉・愛護の意識向上、普及啓発に向け、自治体との連携等、幅広い取組みを行っています。
- (2) 災害支援に関する活動: ペット防災の知識啓発のため、イベントの開催やペット防災専門メディア「どうぶつ防災図鑑」などを通して情報発信を行っています。
- (3) 動物介在活動の普及・啓発: 動物介在活動や動物介在教育の認知向上、普及啓発に向けて、セミナーの開催や「anicom you」を通じた情報発信等を行っています。
- (4) 野生動物保護に関する活動: 野生動物の保護、違法取引の減少・撲滅によるペット業界の健全化に向けて、「anicom you」での記事の公開や社内セミナーの開催を通じた情報発信を行っています。

②2024年度活動報告

【動物福祉・愛護チーム】

埼玉県が実施した動物愛護週間の啓発活動や動物愛護フェスティバルへの参画を通じて、どうぶつと人の命の大切さを伝えるための活動を推進。地域密着型の愛護啓発活動により、行政と市民との橋渡し役としての機能を果たしました。



【防災チーム】

各自治体と連携して防災セミナーを実施。千葉県では動物愛護ボランティア向けに「災害時におけるペット対策について」の講習、神奈川県では飼い主様向けに「わが子も自分も守る防災を考える」セミナーを実施し、防災手帳作成のワークショップも行いました。



【動物介在活動チーム】

動物介在教育として、グループ従業員の子どもたちを対象に、命の大切さや他者への思いやりを育むことを目的としたプログラムを実施。獣医師・看護士の職業体験に先立ち、犬の性格や身体的特徴、接し方に関するレクチャーを行いました。



【野生動物保護チーム】

野生動物の密輸問題やペット利用について、定期的に社内講座を実施。2024年度は日本でペット利用されている野生動物の代表例、コソメカワウソに焦点を当て、社内向けセミナーを開催しました。



人権尊重

人権基本方針

アニコムグループでは、人権基本方針を定め、社内外での人権意識の向上と良好な職場環境の実現に努めています。具体的な取り組みとして、国内法や国際基準に基づく人権規範の遵守、差別やハラスメントの禁止、個人情報の適切な管理などが挙げられます。さらに、人権問題の解決に向け、社内外に窓口を設けた内部通報制度(ホットライン)を設けています。全文はこちら ▶ (<https://www.anicom.co.jp/company/human-policy/>)

人権デューデリジェンス



人的リスク管理規程において、不公平・不公正により生じるリスク、差別的行為により生じるリスクなどを人的リスクと定義し、防止・軽減のために、社内規程類の策定・改廃や、役職員に考え方を徹底するための教育を実施しています。定期的な点検・モニタリングの結果や、重大な問題発生については、グループリスク管理委員会へ報告のうえ、是正に取り組んでいます。また、当社HP上で必要に応じて関連する情報を開示しています。

当社ビジネスモデルにおける潜在的なリスクと対応策

ステークホルダー	リスク	対応策
お客様	保険契約における差別的扱い	配偶者の範囲拡大
パートナー	保険代理店等の外部委託先での個人情報漏えい、人権問題発生	継続的な監査・指導、内部通報制度の適用
従業員	不公平・不公正、ハラスメント等に起因した人材流出	内部通報制度、配偶者の範囲拡大、人権啓発研修、ハラスメント防止研修

取組み

●内部通報制度(ホットライン)

ハラスメント等、人権問題の解決に向け、社内外に窓口を設けた内部通報制度(ホットライン)を導入し、役職員がより働きやすい職場環境を実現するよう努めています。なお、退職者および当社グループと契約関係にある事業者の労働者も利用可能です。

●配偶者の範囲拡大

アニコム損保のペット保険の約款では、「被保険者」に含まれる「本人の配偶者」について、事実婚関係や同性のパートナーも含めることを明記しています。また、就業規則においても、特別休暇の対象となる配偶者の範囲に同性のパートナーも含めることを明記しています。

気候変動への取組み

TCFD提言への対応

昨今、世界では気候変動をはじめとする環境課題が深刻化しています。日本国内においても、異常気象による大規模な自然災害が多発するなど、今や気候変動は最も重要な社会課題の1つとなっています。

このような中、ペット保険事業を主たる事業とする当社グループにおいては、自然災害を補償していないことから、他の損害保険会社のような損害の発生は想定されておらず、気候変動が直接的にアニコムグループの事業活動に及ぼす影響は限定的であると認識しています。

一方で、気候変動への対応は持続可能な社会の実現に不可欠であると認識しており、アニコムグループとしても取り組むべき課題であると捉えています。2022年6月に制定した「サステナビリティ基本方針」においても、重点課題として「環境への貢献」を位置付けており、温室効果ガスの排出量削減、廃棄物の削減と再利用の推進といった、気候変動への対応や生物多様性の保全に向けた活動に取り組んでいます。

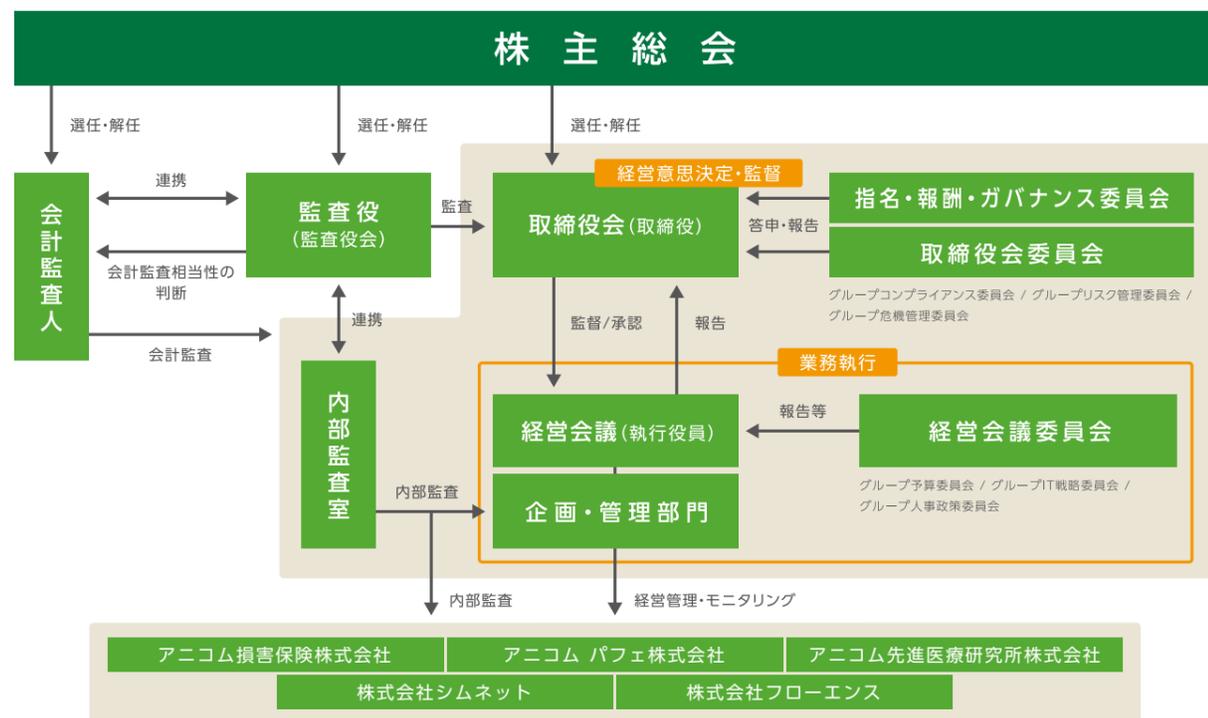
2023年4月には、TCFD(Task Force on Climate-related Financial Disclosures:気候関連財務情報開示タスクフォース)提言への賛同を表明しました。TCFD提言に基づく開示を行うことは、気候変動に対する当社の取組みを推進するために有益であると捉え、「ガバナンス」「戦略」「リスクマネジメント」「指標と目標」の4項目での開示対応を行っています。

①ガバナンス

気候変動に関するガバナンスについては、サステナビリティ推進におけるガバナンスと一体で管理しています。

アニコムグループでは、サステナビリティ経営をグループ全体で横断的に推進するため、経営意思決定機関である取締役会の監督のもと、業務執行を担うグループ会社の取締役および執行役員等で構成される「グループ経営会議」にて、半期に一回程度、サステナビリティに関する取組みの進捗について議論を行い、取締役会へ報告しています。

取締役会は、「グループ経営会議」にて議論された内容の報告を受け、アニコムグループの環境課題への対応方針や実行計画等について議論を行っています。



②戦略

気候変動リスクの顕在化に伴う外部環境や事業環境の変化を想定し、リスク事象を洗い出すことで、アニコムグループへの影響を特定・評価しています。アニコムグループの事業に対する主な気候変動リスク・機会は以下のとおりです。

	種類	想定される気候変動リスク・機会の当社グループへの影響
移行リスク	政策・法規制	温室効果ガス排出抑制の政策導入・規制強化によるエネルギーコスト増加
	評判	低炭素への取組みが不十分なことによるレピュテーションの低下
物理リスク	急性	自然災害による当社グループの事業拠点への被害 自然災害の増加による保険金増加
	慢性	ペットの健康リスク増加による損害率上昇、収益力低下
機会	市場	ペットの健康リスク増加によるペット保険の需要増加、口腔ケア等の健康促進事業の需要増加
	製品/サービス	災害時のペット同伴避難、災害地区のサポート、ペットの防災関連サービスといった新商品の提供

③リスクマネジメント

ペット保険事業を主たる事業とするアニコムグループにおいては、自然災害を補償していないことから、他の損害保険会社のような損害の発生は想定されておらず、気候変動が直接的にアニコムグループの事業活動に及ぼす影響は限定的であると認識しています。そのうえで、気候変動に関するリスクについては、サステナビリティ推進におけるリスク管理と一体で管理しています。

アニコムグループでは、「グループリスク管理基本方針」を制定し、アニコムグループの経営に影響を及ぼしうるリスクの予見・コントロールに努めるとともに、サステナビリティに関して特に環境変動を想定した応答活動を常に準備し、不測の事態にあってもサービスや商品の品質を維持し、事業継続ができるように、リスク管理体制の構築に努めています。また、リスク管理に関する会議体として「グループリスク管理委員会」を設置しており、サステナビリティに関する取組みを含むグループの個別リスク管理の状況及び統合的に評価したリスクの状況等に関して議論を行い、取締役会へ報告等を行うことで、経営におけるリスク管理等の推進を図っています。

また、「グループ倫理規範」において、サステナビリティを追求するためにはリスク管理体制の構築及び内部統制の整備が必要不可欠であり、最善を尽くさなければならないことを明記しています。アニコムグループが保有するリスクを正しく認識するため、エマージングリスク(将来新たに発現し、アニコムグループの経営に大きな影響を及ぼす可能性のあるリスク)も含めたリスクの概要を網羅的に洗い出し、サステナビリティに関するリスクを含めたリスク・プロフィールを定期的に作成しています。

④指標と目標

アニコムグループではパリ協定の実現を目指し、温室効果ガスの削減に取り組んでいます。気候関連リスク・機会の管理に用いる指標として、Scope1+2の実質温室効果ガス排出量を指標として定め、開示しています。

具体的には、「中期経営計画2022-2024」の期間に合わせ、Scope1+2実質温室効果ガス排出量について、2020年度を基準年度として2023年度に50%、2024年度に100%削減を目標として設定しています。また、今後はScope3についても算出対象の特定、排出量算出及び開示に取組み、2030年までに算出対象のScope3を含めた総排出量を2020年度と比較して最低50%削減、2050年までのカーボンニュートラル達成を目指します。

(GHG排出量の実績)

項目	実績				目標
	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2030年度
Scope1+2 GHG排出量 (単位:t-CO ₂)	1,050	1,225	271	180	0

(注) 1. 算定対象は当社及び連結子会社としています。データ収集体制が整っていない一部の動物病院については、2022年度までは算定対象から除外、2023年度から病院規模別の平均排出量を算入しています。また、2024年度から連結子会社となった株式会社フローエンスについては、データ収集体制が整っていないため、算定対象から除いています。
2. 6.5ガスは算定対象外としています。
3. 環境省・経済産業省が公表する電気事業者ごとの「調整後排出係数」を用いて算出しています。
4. 2023年度は、非化石証書を購入することでScope2の再エネ比率100%を達成しました。
5. 2024年度は、再エネ由来電力の利用および非化石証書を購入することにより、また、社用車から排出されたCO₂をJ-クレジットを活用して全量オフセットすることにより、カーボンニュートラルを達成しました。